

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195900022		
法人名	株式会社 クオス		
事業所名	グループホーム紅葉の里		
所在地	夕張市紅葉山235-11		
自己評価作成日	2022.3.17	評価結果市町村受理日	2022.4.21

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0195900022-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0195900022-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしい生活の維持理想だが、コロナ禍においてできていないのが現状です。コロナ禍の状況下ではあるがその人らしい生活を自分で選択し自分の力でできるよう職員が支援していきたい。  
職員の都合による介護ではなく利用者のニーズに合わせた支援を行い出来ないことに対して支援することで安心かつゆったりとした生活を提供したいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム紅葉の里」は新夕張駅からほど近い場所にあり、家族的な雰囲気を感じられる1ユニット9名が暮らす平屋建ての事業所である。リビングルームの大きな窓からは鹿や鳥、小動物などの往来も見え、豊かな自然を身近に感じられる。外気浴に適したウッドデッキから季節ごとの風景を見たり、散歩する住民と挨拶を交わし犬を見せてもらうなどの交流をしている。協力医療機関の医師が毎週訪問して健康管理を行い、緊急時に連絡が取り合える体制が整えられている。食事は毎食とも栄養バランスの整った献立を、旬の食材を使い彩り良く調理し提供している。職員も利用者と同じテーブルで見守りをしながら一緒に食べている。入浴は午後の時間帯に寛いで入れるよう職員と会話をしながら好みの湯加減で、入浴剤を入れた湯船に浸かっている。また、利用者の出来ることを判断し、出来そうなことは自分でしてもらい出来ない事をサポートしながら過剰介護にならないよう見極め、必要な援助を行っている。毎日行うラジオ体操や職員が考案したゲームなど、多種のアクティビティを楽しんでいる。感染症対策として頻繁な外出はできないが、季節の花見や紅葉見学の他に、平日の人流を見極めながら駅前の道の駅でアイスクリームを食べる計画もある。利用者を優しく見守り居心地よく、安心して暮らせる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をカウンターの上の見える所に掲示しているが振り返る事が少なく実践につなげているとは言えない。	理念を事業所内の要所へ掲示している。職員に理念が浸透しているかの確認をする場面が乏しく、今後は職員一人ひとりに自覚ができるような機会を設けることを検討している。	理念を再度確認し、共通認識としてと実践につなげられるよう期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や地域の方々との交流が思うようにできていない。又、コロナ禍で難しい状況である。	感染症対策として交流を制限しているが、ベランダに出て犬の散歩をしている住民と挨拶を交わし、犬を見せてもらう等で交流をしている。今後は感染対策を徹底して道の駅等でソフトクリームを食べる事も検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	改まってそのような機会はありません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナ禍で開催ができていない。開催時には、委員からのアドバイスを頂いている。	感染症対策として今年度は書面会議を行い、事業所の報告としている。感染症の影響が収束した場合には、議題を幅広く設定した運営推進会議の再開を考えている。	今後の運営推進会議は定期的開催ができるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	夕張市とは利用者、待機者の状況新規受け入れなど必要に応じて行なっている。	夕張市と退去者の状況確認等で連絡を取り合っている。保護課の調査では感染症対策のため、玄関先で対象者の確認をしてもらっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行われていない。日中は、玄関の施錠はせず過ごしていただいています。	身体拘束廃止に関する指針と高齢者虐待防止についての指針を用意し、身体拘束・虐待防止委員会を今年度は4回と、それらに係る研修も2回開催し、身体拘束をしないケアを実践している。夜間帯のみ防犯目的で玄関の施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に自分たちの介護に対して虐待ではないかなど注意を払い防止につとめている。		

グループホーム紅葉の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に学ぶ機会はなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用前に見学していただき不安や疑問点を話していただき説明しております。契約時に説明し同意を得る様にしております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には何でも話していただけるように普段からしております。不満や苦情は少ないです。	電話にて健康状況や生活の様子を知らせる時や、利用者への届け物を持ってきたときに家族と話をしている。感染症対策を徹底しベランダで距離を置いて話したり、窓越しで顔を見てもらうなどの面会支援をしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から意見を発現しやすい雰囲気を作り、出された意見は繁栄できるように努めている。	管理者は日々の業務で職員の悩みや相談を聞きながらアドバイスをしており、話しやすい関係が出来上がっている。本社の役員と年3回の面談機会もあり、意見や提案は言いやすく、職員意見も運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社とのミーティング開催時に職員の要望など伝えられている。週1回部長が来ているので問題等がある時は対応していただいている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加したいがコロナ禍で難しい状況である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流はあまりないのが実情である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	充分ではないが1人1人が安心して生活できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との関係づくりはできていると思います。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と相談しながら本人が安心して利用できるように対応している。早急な対応が必要な利用者には可能な限り対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援するという意識を持たずお互いに共同しながら和やかな生活ができるように声掛けしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	1人1人の様子を電話や訪問時に伝える事で家族との協力関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会規制があり面会できていない。以前は、面会時にゆっくりできるよう配慮していた。	感染症流行により面会制限があるため、家族の頻繁な訪問は出来ないが、親族へ電話を掛けるサポートをしている。春と秋は、以前から訪れていた馴染みのある湖や公園にドライブをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聴いたり皆で楽しく過ごす時間や木の合ったもの同士で過ごす場面を作っている。孤立した場面も見られることもある。		

グループホーム紅葉の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談、支援を行った事例はありません。 今後、機会がある時は必要に応じて行ないたいと思います。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から本人の訴えを聞くようにし思いを把握しながら希望に沿った支援ができるように努めています。	日頃の会話や様子から意向を確認しているが、難しい場合は言葉にならない独語を傾聴して表情や行動、仕草を観察しながら職員間で検討している。	利用者ごとに、どのような支援を必要としているかの課題分析のため、アセスメントシートを定期的に更新をすることに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人との会話の中で把握できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や業務日誌を職員間で把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別の介護計画を作成している。日頃のかかわりの中で思いを聞き充実させるようにしている。細かい見直しは不十分である。	サービス担当者会議で話し合い、家族と本人の意向を取り入れ、利用者の持病についても検討し、6か月ごとに介護計画を作り上げている。今後は計画に沿った支援の記録について更に検討したいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は食事、水分、排雪など身体状況、暮らしの様子が書かれている。職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に合わせて、その時その時に必要な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市職員、消防、居宅支援事業所などと協力しながら指導等を受け支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	訪問診療及び訪問歯科と相談しながら健康管理をしている。	提携先の医師が毎週訪問して健康管理を行い、利用者ごとに診療記録を付けている。体調の変化があればいつでも相談が出来る体制になっている。	

グループホーム紅葉の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置、訪問看護師は来ていない。すべて訪問診療の医師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には利用者様の情報を提供している。家族とも情報を交換している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについてはご家族様に意向を伺い同意を得て医師と相談し週末支援を行っている。	契約時に事業所での看取りを行っていない説明をしている。重度化した場合は医師の判断に基づき、都度家族と話し合い、他の医療・福祉機関への移行支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	周知しているが、定期的な訓練が必要と思います。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍で避難訓練が思うようにできない状況であった。地域住民の方との関係が希薄で不安がある。災害時の備品は誠意している。	災害備蓄品の確保をしている。防火自主点検表で毎日確認をしている。次回は自然災害を想定した訓練を計画している。	感染症対策のため、定期的な訓練が見送られている。次年度から計画的に実施できるよう期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人のプライバシーに配慮した支援ができるように努めている。誘導の声掛けには、本人を傷つけないように努めている。	管理者は人生の先輩としての対応のあり方や接遇について伝え、職員へ意識づけを行っている。プライバシーに関わる声かけにも留意している。個人記録は事務所で保管し他者の目に触れない場所で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向が示されるよう本人に合わせた言葉かけを心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れはあるが、本人の思いを把握しその人の体調に配慮しながら支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には外出着に着替えている。入浴時に着替えを促している。		

グループホーム紅葉の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聴く機会はある。昼食は利用者様と職員が同じものを一緒に楽しみながら食べている。	本社が作成するバランスのよい献立で季節感のある食事を提供している。誕生日は赤飯や生ちらして祝い、敬老会やクリスマス、正月などに法人からオードブルが届き楽しみとなっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は記録している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要時は、訪問歯科医師に相談し支援している毎食後、自力又は介助し全員が口腔ケアを行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人状況に合わせてさりげなく誘導してトイレで排泄できるよう支援している。	日々のケース記録に排尿・排便を記録し1日の状態を把握し、別個に排便状況を記して適切な排泄に向けている。時間誘導や声かけでトイレ排泄を支援している。夜間自ら起きない利用者へは排泄の衛生用品を調整して不快にならない対応を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表、水分チェック表で水分摂取量に気を付けている。又医師から下剤など処方されている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる体制である。午後からの入浴ではあるが早く入りたいなどの希望を把握し声掛けで対応している。	利用者1人が3日に1度のペースで午後からの対応である。入浴剤や職員との会話を楽しみながらゆっくりと入浴している。入浴を拒む利用者はなく、安心感や寛げる入浴となっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し1日の生活リズムを作りを通した安眠策を取っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	地味室ロッカーに保管。服用時に手渡し飲み込むまで確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できそうなことや、やりたいことをして頂いている。感謝の言葉を伝えるようにしている。			

グループホーム紅葉の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で思うように外出できない状況ですが、桜、紅葉見学には車で数名に分かれて外出しています。暖かい日は、ウッドデッキで日光浴やお茶を飲んでいる。	感染症の流行により例年実施している事業所夏祭りや外出は制限されているが、シューパロ湖や滝の上公園へドライブに出かけて車窓からの桜や紅葉見学を行った。ウッドデッキを活用し外気に触れられる機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了承を得て少額のお金を持っている利用者はいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	3名の利用者様が携帯電話を持っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間等は家庭的な雰囲気がありまた季節感も感じられる工夫をしている。日差しがまぶしい時はカーテンを閉めるなど配慮している。	共用空間は明るく窓から自然の景色が見渡せ四季の移ろいを感じる事ができる。リビングダイニングは家庭的で落ち着いた雰囲気があり、清掃も行き届き清潔感がある。エアコンや加湿器、窓の開閉で空調を管理している。季節ごとに飾り付けを工夫し季節を感じてもらえるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファー食堂の椅子など木の合った方と過ごしたり1人で好きな場所で過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には備え付けのベッドとクローゼットがあり入口に見やすい表札がある。テレビや仏壇など馴染みの家具を持ち込んでいる。	居室入り口に表札を掲げ自室と分かるようにしている。ベッド、クローゼット、防災カーテン、照明を備えている。鏡台やタンスなどの使い慣れた家具や生活用品類が持ち込まれ家族の写真などが置かれている。利用者の居心地や動線に配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、トイレ、浴室、廊下の要所に手すりが設置されている。1人でも安全に歩行できるようになっている。台所は対面で下膳ができる。		

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム紅葉の里

作成日：令和 4年 4月 20日

市町村受理日：令和 4年 4月 21日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念を再度確認し、共通認識として実践につなげられるよう期待したい。	次年度より実施する	・会議等で全職員で話し合う。 ・理念や目標を全員で共有し確認する。	12ヶ月
2	4	今度の運営推進会議は定期的開催できるよう期待したい。	次年度より実施する	・コロナ禍で難しいのが現状ではあるが開催できない場合は文章で報告していく。	12ヶ月
3	23	利用者ごとに、どのような支援を必要としているかの課題分析のため、アセスメントシートを定期的に更新することに期待したい。	更新時に課題分析シートを作成する	・更新時に課題分析シートを作成していく。	12ヶ月
4	35	感染症対策のため、定期的な訓練が見送られている。次年度から計画的に実施できるよう期待したい。	次年度より実施する	・会社、協力機関と協議し訓練できるよう計画をし実施していきたい。	12ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。